

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100583		
法人名	医療法人社団 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム(1ユニット)		
所在地	岐阜県可児市桜ヶ丘6丁目73		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173100583&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173100583&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭が広く、日向ぼっこや、ガーデンランチを行ったり、利用者様全員で畑を耕したり、作物の収穫を行なうことにより、日々の喜びや、季節感を肌で感じていただくことができる。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは内部も敷地も共に広く、ホームの前には桜並木が広がり、自然環境にも恵まれている。「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切に」の理念の基、ホーム独自のシート「ヒストリーメモ」を作成し、利用者の意向や希望の把握に努め、個性や習慣を大切にしたケアに取り組んでいる。地域との交流も盛んで、公民館で開催される音楽祭に利用者全員で出かけたり、近隣の小学校高学年の福祉委員が定期的に訪問し、カルタやお手玉などで楽しい時間を共有している。健康面でも、協力病院の医師と看護師が定期的に往診し、早期の対応を行っている。職員の定着率は高く、利用者との馴染みの関係も形成されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を大切にという理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切に」の理念の基、利用者個々のレベルに合わせたケアの工夫に管理者も職員も共に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽祭、小学生の運動会見学、年二回の小学生来訪等の交流をしている。	地域の公民館で、年1回行われる音楽祭には利用者全員が参加している。また、近隣の小学校とは、引率の先生と高学年の福祉委員20名程がホームを訪問し、利用者やカルタやお手玉などで楽しい時間を共有し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉委員の来訪がありホームで作った野菜を持って行ってもらうなどの交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、利用者様の家族、自治会長、地区民生委員、市職員、ホーム職員をメンバーとし、二ヶ月に一回開催している。	2ヶ月に1回、平日の1時30分からの昼の時間帯に、自治会長、民生委員、市職員、ホーム職員をメンバーに開催し、ホームの利用状況、月間の行事予定、避難訓練の日程、スプリンクラー工事等の予定を知らせ、参加者それぞれに協力を依頼している。	平日の昼の時間帯は、家族が参加しづらいため、家族の参加が得られていない。家族や利用者の参加しやすい時間帯を調整されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の近況報告や各種制度の相談を通し、市との連携を図っている。	市担当職員が、毎回運営推進会議に出席しており、利用者の状況等を報告し、情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないということを、すべてのスタッフが正しく認識しており、身体拘束のないケアを実施している。	玄関に犬型のセンサーが設置されており、日中は施錠されていない。夜間帯や状況に応じて一時的に施錠をする場合がある。	身体拘束における禁止の対象となる具体的な例を用いた研修は行われていない。基本的な知識を職員間で周知し、拘束がないケアの実践を継続されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持ち、ミーティングで発表している。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し、同意を頂き不安や疑問がある場合は、その都度説明し、納得して頂けるように理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	各ユニットの玄関に、面会者の記名時に要望や気づきを記載する記入用紙が置かれ、記入を依頼している。家族の訪問時には、利用者の近況報告を行いながら意見や要望を聞き出し、介護計画へ反映したり、事業所会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと施設全体の事業所会議にて、意見を交換している。	事業所会議には、代表者、各部署の代表者が参加し、職員の意見や要望も含め様々な事柄について話し合っている。医療的配慮が必要な利用者の入居希望があり、職員配置や対応可能な範囲について要望を出し、事業所会議で検討した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報が伝えられ、職員参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半年に一度市内のグループホームスタッフと集まり、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とスタッフの信頼関係を築く為になるべく多くの会話に努め、不安を取り除き、要望、安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご要望をお聞きし、ご要望に添って支援が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、御本人様ご家族様の意向をお聞きし、出来る限り要望にあったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として、利用者様を尊敬し、日々過ごす中、信頼関係や穏やかな日常生活を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りで利用者様ごとの個別の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全職員が常勤で定着し、年長の馴染みの関係を築いている。	ホーム入居以前の馴染みの関係継続は難しいが、利用者同士の馴染みの関係ができつつある。職員も長く定着し、利用者との関係は深まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間できるだけ食堂で過ごしていただき、利用者様の間で、会話、レクリエーションに参加していただき、和やかな気持ちになって頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のこれまでの生活歴を把握した上で、それぞれの思いを受け止めている。	ホーム独自の本人のことを記載するシート「ヒストリーメモ」を活用している。言葉での把握が困難な利用者には、表情で読み取る等の個別ケアに努めている。	利用者のやれそうなこと、できる事の支援の中断がおきている。少しでもできる事の継続が持続されるよう一人ひとりの意向の把握に努め、支援の方法を工夫されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にヒストリーシートを用いて参考にし、ケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に無理のない限りで、出来ること、出来るようなことについては、ご自分でして頂けるように促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアを行なう上での課題を解決する為、すべてのスタッフで定期的に会議を開き意見交換を行なって合意を図っている。	医療的なことは、訪問看護ステーションの看護師とも相談の上、介護計画に基づき一定期間でモニタリングし、次の介護計画につなげている。事前に本人や家族に意向を確認し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させる為、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これから行なっていきたい。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でおこなわれている行事に、出来るだけ参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の往診。看護師が日常の健康管理を行っており他科受診は家族に通院の付き添いを依頼している。	現在、1名の利用者が隣市の医療機関に家族の同行により定期受診しているが、他の利用者は、法人病院の医師が月2回の定期往診を行っている。看護師が医師の往診日の前日に訪問し、利用者の健康状態の把握に努め、医師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時普段と様子が違う時は相談し他科受診が必要であれば依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っている又情報提供書を用いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の方針を説明している又治療が必要になった場合は家族の希望を聞きながら医師、スタッフで話し合い対処している。	重要事項説明書の項目、医療連携体制に関する説明書を作成し、契約時に説明し、その都度相談しながら行う旨の同意書を交わしている。過去に1例の看取りが行われた。	さらには、身体的な状況や看取りについて具体的な内容の意思確認が書面でもか交わされることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これから行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設合同で年間二回の避難訓練を行なっている。利用者様、自治体、民生委員なども参加している。	法人併設施設と合同で、年2回の避難訓練をサービスの防火管理者の計画により実施している。訓練には、近隣の自治体や民生委員の参加も得られている。避難経路の確認と実際の誘導、消火活動も実施している。スプリンクラーの設置工事も予定している。	さらには、夜間や利用者の状況を踏まえた避難訓練をホーム職員が主体となって実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立支援を図る為に、出来ること出来るようなこと、については、声掛け、見守りをし、一緒に行なうようにしている。	職員は、利用者の「ヒストリーメモ」等で把握した個別の誇りや人格を尊重し、声かけにも細心の注意を払っている。耳の遠い利用者には、文字にして意思を伝える工夫も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望をケアプランに取り入れ、スタッフが把握し、できるだけ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これから行なっていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気持ちを大切に、プライドを傷つける事なく、さりげなく職員間で取り決め実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者に委託しているが、盛り付け、片付け、出来る範囲で利用者様に参加してもらっている。又、嗜好を業者に伝え代替食を用意して対処している。	副食は業者に委託し、ホームではご飯と汁物のみを用意している。盛り付けは職員が行っている。食器を運んだり、お盆を拭く等の片付けは、利用者も職員と共にしている。誕生会等の行事には、手作りのおやつを共に作り、定期的な外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食カロリーは配達されている表から計算し、把握している。摂取量から個別の食事管理もできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、入れ歯の手入れ、歯磨き等の支援を行なっている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを出来る限り使用しないで済むように利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	各居室にトイレがあり、毎食時・入浴前・寝る前と起床時に、何処に居ても必ず居室トイレに誘導している。オムツは、家族が購入してホームに届けており、間に合わなかったり、急にオムツのタイプを変更した時にはホームで対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録として残し、本人のタイミングをみつけて、成功に繋がる誘導や使用するパッド類の活用等、ケアに活かされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、記録に残している。又、便秘気味の方には医師、看護師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2～3回個人の希望に添った支援をしている。また、一般浴が困難な場合は隣接するディサービスのリフト浴を利用している。	入浴は、基本的に週2回、午後の時間帯に行われ、一般浴は週3回ホームで準備しているため、希望があれば週3回入浴出来る。週2回は併設ディサービスの機械浴を使用しており、ホーム職員の介助で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者様には、1日のリズム作りを通した安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が、使用する薬の目的や副作用、用法を承知しており、利用者様一人ひとりが医師の指示通りに服用できるように支援し、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小学生との交流や、音楽療法、地域の方による発表会、レクレーションの外出、外食などに参加して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に添って、レクレーションの一貫として、外出、買い物などに同行している。	ホーム前の一帯には桜並木があり、散歩やドライブに適している。日課としての近隣周辺への散歩はないが、昼間の施設はなく、利用者は広い敷地内を自由に散歩できる環境にある。季節の花見に遠出したり、買い物、気分転換等にもドライブを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の金銭管理を本人が行なえるよう、利用者様一人ひとりの希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙を出したいとの希望にて、ご家族様の都合を配慮し、制限なく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体には、ゆとりのある空間があり、利用者様には、ゆっくりすごして頂いている。また、庭の花や野菜も作り、季節感を味わうと共に、食堂に飾ったりしている。	共用スペースは十分な広さがあり、ゆったりした生活空間で、リビングや廊下の窓からは町の桜並木が見える。共用空間や庭のあちこちにテーブルやベンチが用意されており、広いベンチに並んで座る利用者の姿がある。2階には、畳みスペースもあり、そこで昼寝をする利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、食堂以外の談話スペースがあり、ご自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みについては、御本人様とご家族様に相談して頂いている。居室には、写真や、誕生日カード、カレンダーなどを飾り、季節感を感じて頂ける様工夫をしている。	各居室は十分な広さがあり、ベッド、クローゼット、テーブルやイスがセットで用意されている。自宅からやテレビや位牌などの持ち込みもあり、利用者の特色が表れた落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの、出来ること、わかること、をスタッフが把握し、出来るだけ、見守り、声掛けをし、自立支援に努めている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100583		
法人名	医療法人社団 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム(2ユニット)		
所在地	岐阜県可児市桜ヶ丘6丁目73		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年1月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭が広く、日向ぼっこや、ガーデンランチを行ったり、利用者様全員で畑を耕したり、作物の収穫を行なうことにより、日々の喜びや、季節感を肌で感じていただくことができる。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは内部も敷地も共に広く、ホームの前には桜並木が広がり、自然環境にも恵まれている。「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切に」の理念の基、ホーム独自のシート「ヒストリーメモ」を作成し、利用者の意向や希望の把握に努め、個性や習慣を大切にしたケアに取り組んでいる。地域との交流も盛んで、公民館で開催される音楽祭に利用者全員で出かけたり、近隣の小学校高学年の福祉委員が定期的に訪問し、カルタやお手玉などで楽しい時間を共有している。健康面でも、協力病院の医師と看護師が定期的に往診し、早期の対応を行っている。職員の定着率は高く、利用者との馴染みの関係も形成されている。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を大切にという理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切に」の理念の基、利用者個々のレベルに合わせたケアの工夫に管理者も職員も共に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽祭、小学生の運動会見学、年二回の小学生来訪等の交流をしている。	地域の公民館で、年1回行われる音楽祭には利用者全員が参加している。また、近隣の小学校とは、引率の先生と高学年の福祉委員20名程がホームを訪問し、利用者やカルタやお手玉などで楽しい時間を共有し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉委員の来訪がありホームで作った野菜を持って行ってもらうなどの交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、利用者様の家族、自治会長、地区民生委員、市職員、ホーム職員をメンバーとし、二ヶ月に一回開催している。	2ヶ月に1回、平日の1時30分からの昼の時間帯に、自治会長、民生委員、市職員、ホーム職員をメンバーに開催し、ホームの利用状況、月間の行事予定、避難訓練の日程、スプリンクラー工事等の予定を知らせ、参加者それぞれに協力を依頼している。	平日の昼の時間帯は、家族が参加しづらいため、家族の参加が得られていない。家族や利用者の参加しやすい時間帯を調整されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の近況報告や各種制度の相談を通し、市との連携を図っている。	市担当職員が、毎回運営推進会議に出席しており、利用者の状況等を報告し、情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないということを、すべてのスタッフが正しく認識しており、身体拘束のないケアを実施している。	玄関に犬型のセンサーが設置されており、日中は施錠されていない。夜間帯や状況に応じて一時的に施錠をする場合がある。	身体拘束における禁止の対象となる具体的な例を用いた研修は行われていない。基本的な知識を職員間で周知し、拘束がないケアの実践を継続されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持ち、ミーティングで発表している。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し、同意を頂き不安や疑問がある場合は、その都度説明し、納得し頂けるように理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。	各ユニットの玄関に、面会者の記名時に要望や気づきを記載する記入用紙が置かれ、記入を依頼している。家族の訪問時には、利用者の近況報告を行いながら意見や要望を聞き出し、介護計画へ反映したり、事業所会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと施設全体の事業所会議にて、意見を交換している。	事業所会議には、代表者、各部署の代表者が参加し、職員の意見や要望も含め様々な事柄について話し合っている。医療的配慮が必要な利用者の入居希望があり、職員配置や対応可能な範囲について要望を出し、事業所会議で検討した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報が伝えられ、職員参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半年に一度市内のグループホームスタッフと集まり、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とスタッフの信頼関係を築く為になるべく多くの会話に努め、不安を取り除き、要望、安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご要望をお聞きし、ご要望に添って支援が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、御本人様ご家族様の意向をお聞きし、出来る限り要望にあったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として、利用者様を尊敬し、日々過ごす中、信頼関係や穏やかな日常生活を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りで利用者様ごとの個別の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全職員が常勤で定着し、年長の馴染みの関係を築いている。	ホーム入居以前の馴染みの関係継続は難しいが、利用者同士の馴染みの関係ができつつある。職員も長く定着し、利用者との関係は深まっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間できるだけ食堂で過ごしていただき、利用者様の間で、会話、レクリエーションに参加していただき、和やかな気持ちになって頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のこれまでの生活歴を把握した上で、それぞれの思いを受け止めている。	ホーム独自の本人のことを記載するシート「ヒストリーメモ」を活用している。言葉での把握が困難な利用者には、表情で読み取る等の個別ケアに努めている。	利用者のやれそうなこと、できる事の支援の中断がおきている。少しでもできる事の継続が持続されるよう一人ひとりの意向の把握に努め、支援の方法を工夫されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にヒストリーシートを用いて参考にし、ケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に無理のない限りで、出来ること、出来るようなことについては、ご自分でして頂けるように促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアを行なう上での課題を解決する為、すべてのスタッフで定期的に会議を開き意見交換を行なって合意を図っている。	医療的なことは、訪問看護ステーションの看護師とも相談の上、介護計画に基づき一定期間でモニタリングし、次の介護計画につなげている。事前に本人や家族に意向を確認し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させる為、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これから行なっていきたい。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でおこなわれている行事に、出来るだけ参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の往診。看護師が日常の健康管理を行っており他科受診は家族に通院の付き添いを依頼している。	現在、1名の利用者が隣市の医療機関に家族の同行により定期受診しているが、他の利用者は、法人病院の医師が月2回の定期往診を行っている。看護師が医師の往診日の前日に訪問し、利用者の健康状態の把握に努め、医師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時普段と様子が違う時は相談し他科受診が必要であれば依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っている又情報提供書を用いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の方針を説明している又治療が必要になった場合は家族の希望を聞きながら医師、スタッフで話し合い対処している。	重要事項説明書の項目、医療連携体制に関する説明書を作成し、契約時に説明し、その都度相談しながら行う旨の同意書を交わしている。過去に1例の看取りが行われた。	さらには、身体的な状況や看取りについて具体的な内容の意思確認が書面でも交わされることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これから行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設合同で年間二回の避難訓練を行なっている。利用者様、自治体、民生委員なども参加している。	法人併設施設と合同で、年2回の避難訓練をサービスの防火管理者の計画により実施している。訓練には、近隣の自治体や民生委員の参加も得られている。避難経路の確認と実際の誘導、消火活動も実施している。スプリンクラーの設置工事も予定している。	さらには、夜間や利用者の状況を踏まえた避難訓練をホーム職員が主体となって実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立支援を図る為に、出来ること出来るようなこと、については、声掛け、見守りをし、一緒に行なうようにしている。	職員は、利用者の「ヒストリーメモ」等で把握した個別の誇りや人格を尊重し、声かけにも細心の注意を払っている。耳の遠い利用者には、文字にして意思を伝える工夫も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望をケアプランに取り入れ、スタッフが把握し、できるだけ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これから行なっていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気持ちを大切に、プライドを傷つける事なく、さりげなく職員間で取り決め実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者に委託しているが、盛り付け、片付け、出来る範囲で利用者様に参加してもらっている。又、嗜好を業者に伝え代替食を用意して対処している。	副食は業者に委託し、ホームではご飯と汁物のみを用意している。盛り付けは職員が行っている。食器を運んだり、お盆を拭く等の片付けは、利用者も職員と共にしている。誕生会等の行事には、手作りのおやつを共に作り、定期的な外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食カロリーは配達されている表から計算し、把握している。摂取量から個別の食事管理もできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、入れ歯の手入れ、歯磨き等の支援を行なっている。		



岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを出来る限り使用しないで済むように利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	各居室にトイレがあり、毎食時・入浴前・寝る前と起床時に、何処に居ても必ず居室トイレに誘導している。オムツは、家族が購入してホームに届けており、間に合わなかったり、急にオムツのタイプを変更した時にはホームで対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録として残し、本人のタイミングをみつけて、成功に繋がる誘導や使用するパッド類の活用等、ケアに活かされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、記録に残している。又、便秘気味の方には医師、看護師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2～3回個人の希望に添った支援をしている。また、一般浴が困難な場合は隣接するディサービスのリフト浴を利用している。	入浴は、基本的に週2回、午後の時間帯に行われ、一般浴は週3回ホームで準備しているため、希望があれば週3回入浴出来る。週2回は併設ディサービスの機械浴を使用しており、ホーム職員の介助で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者様には、1日のリズム作りを通した安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が、使用する薬の目的や副作用、用法を承知しており、利用者様一人ひとりが医師の指示通りに服用できるように支援し、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小学生との交流や、音楽療法、地域の方による発表会、レクレーションによる外出、外食などに参加して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に添って、レクレーションの一貫として、外出、買い物などに同行している。	ホーム前の一帯には桜並木があり、散歩やドライブに適している。日課としての近隣周辺への散歩はないが、昼間の施設はなく、利用者は広い敷地内を自由に散歩できる環境にある。季節の花見に遠出したり、買い物、気分転換等にもドライブを楽しんでいる。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の金銭管理を本人が行なえるよう、利用者様一人ひとりの希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙を出したいとの希望にて、ご家族様の都合を配慮し、制限なく支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体には、ゆとりのある空間があり、利用者様には、ゆっくりすごして頂いている。また、庭の花や野菜も作り、季節感を味わうと共に、食堂に飾ったりしている。	共用スペースは十分な広さがあり、ゆったりした生活空間で、リビングや廊下の窓からは町の桜並木が見える。共用空間や庭のあちこちにテーブルやベンチが用意されており、広いベンチに並んで座る利用者の姿がある。2階には、畳みスペースもあり、そこで昼寝をする利用者もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、食堂以外の談話スペースがあり、ご自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みについては、御本人様とご家族様に相談して頂いている。居室には、写真や、誕生日カード、カレンダーなどを飾り、季節感を感じて頂ける様工夫をしている。	各居室は十分な広さがあり、ベッド、クローゼット、テーブルやイスがセットで用意されている。自宅からやテレビや位牌などの持ち込みもあり、利用者の特色が表れた落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの、出来ること、わかること、をスタッフが把握し、出来るだけ、見守り、声掛けをし、自立支援に努めている。		